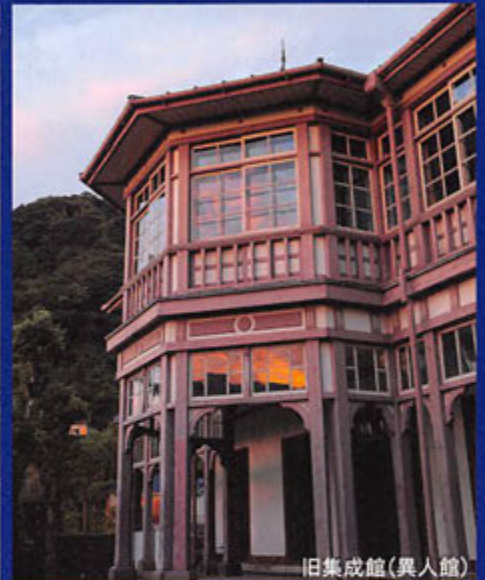


世界遺産と ヘリテージツーリズム

「明治日本の産業革命遺産」
シンポジウム



旧集成館(機械工場)



旧集成館(異人館)



閑吉の滝水



寺山炭窯跡

世界遺産を活用したヘリテージツーリズムの国内外の事例について学び、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の本県の構成資産を素材としたヘリテージツーリズムの可能性・情報発信について探ります。

参加
無料

定員
約350人

2018. 2.12 月/祝 14:00~17:00
鹿児島市民文化ホール 市民ホール



お問い合わせ

鹿児島県PR・観光戦略部世界文化遺産課
TEL 099-286-2366 FAX 099-286-5590
E-mail sekaibunka@pref.kagoshima.lg.jp

主催/鹿児島県

プログラム

14:00 ■ 主催者挨拶

14:05 ■ 基調講演

「ヘリテージツーリズムを通じた地域活性化」

牧野 博明 氏 (公益財団法人日本交通公社観光政策研究部主任研究員)



15:40 ■ シンポジウム

「世界遺産を生かしたヘリテージツーリズムの可能性について」

シンポジスト

牧野 博明 氏 (公益財団法人日本交通公社観光政策研究部主任研究員)

永山 恵子 氏 (NPO法人よしのねぎぼうず理事長)

城戸 光榮 氏 (かごしまボランティアガイド会長)

コーディネーター

島津 孝子 氏 (鹿児島県PR・観光戦略部世界文化遺産課長)

19世紀後半から20世紀の初頭、世界に先駆けて産業革命を成し遂げた西洋の地から、はるか東、アジアの地へ世界で初めて産業化の移転が行われました。この時期に、日本は、後に基幹産業となる製鉄・製鋼、造船、石炭分野において急速な産業化を成し遂げ、工業国家としての土台を構築しました。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、この世界史上稀な出来事を示す23の産業遺産群から成り立っています。

鹿児島には、薩摩藩の開明君主、島津斉彬が、1851年に興した集成館事業に関連する3つの資産(旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝)があります。斉彬は、富国強兵のために西洋科学に挑戦し、造船、製鉄、紡績、ガラスなど複合的な産業を、島津別邸の庭園「仙巖園」に集積し、日本初の工場群を築きました。

応募方法

参加御希望の方は、お名前、会社名等(またはお住まいの市町村名)、電話番号を記入の上、FAXまたはE-mailにて**2月8日(木)**までに下記申込先へお申し込みください。先着順となりますので、お早めにお申し込みください。
※定員を超えた場合は御連絡いたします。
※お申し込みの際にお預かりした個人情報、当シンポジウムの目的以外には使用いたしません。

申込先

「明治日本の産業革命遺産」シンポジウム事務局 (NPO法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 内)
FAX 099-295-3133 E-mail info@tankennokai.com

お名前	会社等(またはお住まいの市町村名)	電話番号